

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2007 年度～2010 年度

課題番号：19202020

研究課題名（和文）東アジアの国際環境と中国・ロシア所在日本関係史料の総合的研究

研究課題名（英文）Overall Research on the international relations in Eastern Asia through Historical Materials relating to Japan in China and Russia.

研究代表者

保谷 徹 (HOYA TORU)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：60195518

研究成果の概要（和文）：

19 世紀を中心とする中国・ロシア所在日本関係史料の体系的収集と分析を進め、当該史料をめぐる国際共同研究を推進して 7 回にわたる国際研究集会を開催するなど、東アジアの国際環境の変容と日本近代化の位相を中国・ロシア所在の一次史料に基づいて論じた。また、3 冊の史料目録を刊行するなど、収集史料および目録情報等の学術資源化・公開利用をはかった。

研究成果の概要（英文）：

We have clearly discussed about the phase of the Japan modernization in the transformation of the international circumstances of the Eastern Asia, by making a systematic research on the historical materials mainly of the 19th century relating to Japan owned in China and Russia, promoting the international collaboration over historical materials concerned, and holding the international symposiums seven times. We have also published three catalogues and made these historical materials open to the academic world.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	10,200,000	3,060,000	13,260,000
2008 年度	9,200,000	2,760,000	11,960,000
2009 年度	8,900,000	2,670,000	11,570,000
2010 年度	8,200,000	2,460,000	10,660,000
総計	36,500,000	10,950,000	47,450,000

研究分野：日本近世史

科研費の分科・細目：人文学・史学・日本史 3102

キーワード：日本史、史料、対外関係史、国際関係史、19 世紀、中国、ロシア

## 1. 研究開始当初の背景

欧米諸国に比して調査研究が不十分だった中国・ロシア所在日本関係史料に関する研究所の先行研究を継承し、ロシア・中国現地の研究者・研究機関との共同研究を具体的に推進する契機が生じていた。系統的な史料調査と共同研究の実施によって、日本関係史料の収集と研究・分析、公開、そして史料目録の出版を進める必要があった。

## 2. 研究の目的

19 世紀を中心とする中国・ロシア所在日本関係史料の体系的収集と分析、当該史料をめぐる国際共同研究を推進することによって、東アジアの国際環境の変容と日本近代化の位相を考察し、収集史料および目録情報等の学術資源化・公開利用をはかることを目的とする。

### 3. 研究の方法

(1) ロシア・サンクトペテルブルク市のロシア国立歴史文書館・同海軍文書館・ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所（旧東洋学研究所）、中国・北京市の中国第一歴史档案館など、現地のアーカイヴズないし研究機関、日本史・日本学研究者と連携して日本関係史料の系統的調査・収集をおこない、共同研究体制を構築する。

(2) 現地研究者を招聘し、国際研究集会を開催して日本関係史料の調査・研究成果を公開・発表する。

(3) 調査・収集した日本関係史料について、史料群の構造に関する史料学的検討をすすめる、史料目録を完成させて翻訳・出版・刊行する。

(4) とくに重要と思われるテーマないし史料群について、現地研究機関との間でマルチアーカイヴァルに重点的な共同研究を実施する。

### 4. 研究成果

(1) ロシア史料の調査収集と共同研究：帝政ロシアの中央政府史料をおさめるロシア国立歴史文書館・ロシア国立海軍文書館の日本関係史料について、系統的な調査・収集を実施した。先行研究で寄贈された故保田孝一岡山大学名誉教授の収集史料群（ロシア語史料）の整理をすすめ、また北海道新聞社・伊藤一哉氏の収集コレクションの寄贈を受けている。このほか、サンクトペテルブルグ国立図書館・ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所・同民族学人類学博物館・ロシア国立海軍中央博物館・ロシア国立砲兵博物館などの調査を行った。

(2) 中国史料（档案）の調査収集と共同研究：中国第一歴史档案館（北京市・故宮内）へ出張して日本関係档案の調査を実施し、先行研究で入手した「軍機処録副」約 2400 件に加え、「宮中朱批奏摺」673 件をデジタルデータで受理した。また研究を進める中で中国国家博物館所蔵「抗倭図巻」を調査する機会があり、別途経費も得て倭寇図像に関する共同研究に着手した。

(3) 国際研究集会の実施：上記史料調査および共同研究の成果をふまえ、現地研究者を招聘して計 7 回の国際研究集会を実施した。そのうち、「日露関係史料をめぐる国際研究集会」および「清代日本関係档案をめぐる国際研究集会」は、東京大学史料編纂所と日本学士院との共催で実施した。また、2010 年度に国際研究集会「比較研究：「倭寇図巻」と「抗倭図巻」」を共同開催した。各研究集会報告は、『東京大学史料編纂所研究紀要』に掲載・発表した。

(4) ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所（旧東洋学研究所）との共同研究：19

世紀初頭サハリン・アイヌとの交易帳簿 2 点のデジタル画像を入手、その解読・翻刻をおこない分析をすすめた。同帳簿は、カラフトでは初めての史料であり、また最古のアイヌ交易記録であるため、注目された。19 世紀初頭の北方紛争関係史料「魯人再掠蝦夷一件」（外務省引継書類）の翻刻作業をおこない、ロシア語翻訳を支援した。

19 世紀初頭の北方紛争に関連して行った調査において、関連するテキスト史料に加え、接收した武器・武具類（民族学人類学博物館）、大砲（砲兵博物館）などを見出すことが出来た。この大砲のうち 1 門は戦国時代のキリシタン大名大友宗麟のものであったことが判明し話題となった。

(5) 日本関係史料目録の作成・出版：『ロシア国立歴史文書館所蔵日本関係史料解説目録』（446 頁）、『中国第一歴史档案館所蔵中日関係史料档案目録』（本文 599 頁）、『ロシア国立海軍文書館所蔵日本関係史料解説目録』（367 頁）を作成し、翻訳・出版して国内外の主要な公立図書館・大学図書館などに頒布した。

この目録類については、今後日本史分野の研究者が活用することが期待される。

(6) その他、研究成果の公開：国際研究集会の報告は随時『東京大学史料編纂所研究紀要』に掲載したほか、調査収集した史料は『大日本古文書』幕末外国関係文書、あるいは『世界史史料』日本編（岩波書店、2011 年刊行予定）などに収録した。

(7) 今後の展望：ロシア・中国所在史料の系統的調査収集を継続し、さらにデジタル化して目録検索が可能なかたちに持っていきたい（研究資源化）。また、共同研究として取りかかっているサハリン・アイヌ交易帳簿や北方紛争史料、あるいは倭寇イメージの研究について、史料集や図録など成果をかたちにしていきたい。

### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 23 件）

① アレクサンドル・シニーツィン、ロシア科学アカデミー人類学民族学博物館（クンストカメラ）が蒐集したフヴォストフ・ダヴィドフ遠征関係資料について、東京大学史料編纂所研究紀要 21、査読無、2011、pp.102-114

② ワジム・クリモフ、1862 年文久日本使節団歓迎式典とその計画内容、東京大学史料編纂所研究紀要 21、査読無、2011、115-127 頁

③ アレクサンドル・ソコロフ、ロシア国立歴史文書館所蔵の岩倉使節団関係資料、東京大学史料編纂所研究紀要 21、査読無、2011、128-136 頁

④ セルゲイ・チェルニャフスキー、1900 年対中国出兵における連合海軍の共同行動ーロ

シア国立海軍文書館史料よりー、東京大学史料編纂所研究紀要 21、査読無、2011、137-145 頁

⑤保谷 徹、サハリン・アイヌ交易帳簿の「発見」と共同プロジェクト、『東京大学史料編纂所研究紀要』20、査読無、2011、pp.149-150

⑥ワジム・クリモフ、サンクトペテルブルグ東洋古籍文献研究所（旧東洋学研究所）所蔵の交易帳簿について、『東京大学史料編纂所研究紀要』20、査読無、2011、pp.151-154

⑦東 俊佑、幕末蝦夷地の経営帳簿「土人勘定差引帳」、『東京大学史料編纂所研究紀要』20、査読無、2010、pp.155-160

⑧谷本晃久、帳簿の概要とアイヌ交易研究、『東京大学史料編纂所研究紀要』20、査読無、2010、pp.161-169

⑨ウラジミール・ソボレフ、19世紀末朝鮮における露日両国の帝国権益対立の歴史、『東京大学史料編纂所研究紀要』20、査読無、2010、pp.170-183

⑩アレクサンドル・ソコロフ、19世紀後半から20世紀初頭の露日貿易と経済関係、『東京大学史料編纂所研究紀要』20、査読無、2010、pp.184-193

⑪ワジム・クリモフ、文久遣欧使節団に対するロシアの外交的準備について、『東京大学史料編纂所研究紀要』20、査読無、2010、pp.194-201

⑫マリナ・マレヴィンスカヤ、アポリナリー・ニコラエヴィッチ・ヴァスクレセンスキーと日本におけるその活動、『東京大学史料編纂所研究紀要』20、査読無、2010、pp.202-206

⑬セルゲイ・チェルニャフスキー、ヤルトロフスク市保存フォンド保管センターから返還されたロシア国立海軍文書館所蔵文書の概要、『東京大学史料編纂所研究紀要』20、2010、pp.207-213

⑭鄒 愛蓮、文化遺産の応急的保護と清史編纂プロジェクト、『東京大学史料編纂所研究紀要』20、査読無、2010、pp.138-148

⑮麓 慎一「日本開国期における帝政ロシアのサハリン島政策」『東京大学史料編纂所研究紀要』19、2009、117-126 頁

⑯ウラジミール・ソボレフ「第二次カムチャッカ遠征時日本沿岸への航海を行った艦船の航海日誌—露日関係形成史に関する基礎史料として—」『東京大学史料編纂所研究紀要』19、査読無、2009、127-132 頁

⑰アレクサンドル・ソコロフ「日本の皇族と政府高官に対するロシアの叙勲」『東京大学史料編纂所研究紀要』19、査読無、2009、pp.133-140 頁

⑱ワジム・クリモフ「1862年の遣欧日本使節団—ロシア帝国外交史料館所蔵史料による—」『東京大学史料編纂所研究紀要』19、査読無、2009、pp.141-155

⑲保谷 徹「歴史小説と幕末史」『歴史評論』

705、査読有、2009、5-23 頁

⑳横山伊徳「異国船打ち払いの時代—『海防』のアウトサイド・ヒストリー—」『九州史学』152、査読無、39-52 頁

㉑王道瑞、中国第一歴史档案馆の文献館時期における档案文献編纂事業の概略、『東京大学史料編纂所研究紀要』、査読無、18、2008、pp.155-168

㉒有泉和子、19世紀はじめの北方紛争とロシア史料：遠征の後始末—フヴォストフ・ダヴイドフ事件とロシアの出方—、『東京大学史料編纂所研究紀要』、査読無、18、2008、pp.18-47

㉓イリナ・ポポフ、ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクトペテルブルグ支部の東洋写本コレクション、『東京大学史料編纂所研究紀要』、査読無、18、2008、pp.48-59.

〔学会発表〕（計1件）

①保谷 徹、在外日本関係史料収集事業プロジェクト—中国・ロシアを中心に—、東京大学史料編纂所シンポジウム「研究と情報の資源化」、2010年1月30日、東京大学山上会館

※上記国際研究集会7件は除く。

〔図書〕（計5件）

①東京大学史料編纂所・ロシア国立海軍文書館共編（保谷 徹、セルゲイ・チェルニャフスキーほか編）、ロシア国立海軍文書館所蔵日本関係史料解説目録、2011、ヒペリオン社、367 頁

②保谷 徹、幕末日本と対外戦争の危機、2010、吉川弘文館、232 頁

③東京大学史料編纂所・ロシア国立歴史文書館共編（保谷 徹、アレクサンドル・ソコロフ編）、ロシア国立歴史文書館所蔵日本関係史料解説目録、2010、ヒペリオン社、446 頁

④東京大学史料編纂所・中国第一歴史档案馆（保谷 徹・王道瑞編）、中国第一歴史档案馆所蔵中日関係史料整理目録、2010、北京瑞古冠中印刷廠、624 頁

⑤保谷 徹、戊辰戦争、吉川弘文館、2007年、316 頁。

〔その他〕報道8件

報道関連：北海道新聞2008年5月4日付「樺太アイヌ民族交易簿現存」（1・3面）、同2009年6月3日付「樺太アイヌ民族の交易品」、朝日新聞2009年9月3日付「アイヌ交易最古の帳簿、200年前の記録発見」、北海道新聞2009年9月21日付「風：核戦争から守った文書」、朝日新聞2010年9月6日付「ロシアに眠る幕府の大砲、江戸後期の紛争略奪品：東大調査」、毎日新聞2010年10月25日付「中国にも倭寇の絵巻、共同研究で謎解明へ」、朝日新聞2010年12月2日付「倭寇図中国にも、制作時期や背景解明へ」、毎日新聞2010

年 12 月 7 日付「倭寇描く二つの絵巻」など。

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

保谷 徹 (HOYA TORU)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：60195518

### (2)研究分担者

榎原雅治 (EBARA MASAHARU)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：40160379  
小野 将 (ONO SHO)  
東京大学・史料編纂所・准教授  
研究者番号：70272507  
松澤裕作 (MATSUZAWA YUSAKU)  
東京大学・史料編纂所・助教  
研究者番号：20361652

### (3)連携研究者

川島 真 (KAWASHIMA SHIN)  
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  
研究者番号：90301861  
木村直樹 (KIMURA NAOKI)  
東京大学・史料編纂所・助教  
研究者番号：40323662  
小宮木代良 (KOMIYA KIYORA)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：90186809  
谷本晃久 (TANIMOTO AKIHISA)  
北海道大学・大学院文学研究科・准教授  
研究者番号：20306525  
鶴田 啓 (TSURUTA KEI)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：10172066  
黨 武彦 (TO TAKEHIKO)  
熊本大学・教育学部・准教授  
研究者番号：80251388  
野島陽子 (NOJIMA YOKO)  
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授  
研究者番号：90218321  
箱石 大 (HAKOISHI HIROSHI)  
東京大学・史料編纂所・准教授  
研究者番号：60251477  
藤田 覚 (FUJITA SATORU)  
東京大学・大学院人文社会系研究科・名誉教授  
研究者番号：20092322  
麓 慎一 (FUMOTO SHINICHI)  
新潟大学・教育学部・准教授  
研究者番号：30261259  
松井洋子 (MATSUI YOKO)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：00181686  
森田朋子 (MORITA TOMOKO)  
中部大学・人文学部・准教授  
研究者番号：80293108

山本博文 (YAMAMOTO HIROFUMI)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：80158302  
横山伊徳 (YOKOYAMA YOSHINORI)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：90143536  
吉澤誠一郎 (YOSHIZAWA SEIICHIRO)  
東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授  
研究者番号：80272615

### (4)研究協力者 (外国籍の共同研究者など)

犬飼ほなみ (INUKAI HONAMI)  
東京大学・史料編纂所・学術支援専門員  
有泉和子 (ARIIZUMI KAZUKO)  
東京大学・史料編纂所・学術支援専門員  
東 俊佑 (AZUMA SHUNSUKE)  
北海道開拓記念館・学芸員  
黄荣光 (HUANG RONGGUANG)  
中国科学院・自然科学史研究所・副研究員  
鄒愛蓮 (ZOU AILIEN)  
中国第一歴史档案館・前館長  
王道瑞 (WANG DAORUI)  
中国第一歴史博物館・研究館員  
陳履生 (CHEN LUSHENG)  
中国国家博物館・副館長  
朱 敏 (ZHU MIN)  
中国国家博物館・研究館員  
ワジム・クリモフ (VADIM KLIMOV)  
ロシア科学アカデミー・東洋古籍文献研究所・上席研究員  
イリナ・ポポワ (IRINA POPOVA)  
ロシア科学アカデミー・東洋古籍文献研究所・所長  
アレクサンドル・ソコロフ (ALEXANDER SOKOLOV)  
ロシア国立歴史文書館・館長  
セルゲイ・チェルニャフスキー (SERGEY CHERNYAVSKIY)  
ロシア国立海軍文書館・館長  
ウラジミール・ソボレフ (VLADIMIR SOBOLEV)  
ロシア国立海軍文書館・前館長  
マリナ・マレヴィンスカヤ (MARINA MALEVINSKAJA)  
ロシア国立海軍文書館・副館長  
アレクサンドル・シニーツィン (ALEXANDER SINITSYN)  
ロシア科学アカデミー・人類学民族学博物館・上席研究員